



【つり はるひと さん】 緑町 / 61歳
●今年の3月まで、北海道千歳高等学校の学校長を務め、現在は、札幌で大学教授として活躍。市民協働推進会議の委員として、千歳のまちづくりに貢献中。

千歳のまちづくりのために
行動し続けます！

千

歳にかかわる「みんな」で、
住みよいまちにするため協力
しあう「市民協働」。

市民活動団体と市などは、市民協働のまちづくりを進めるため、一緒にたくさんの方の活動を行っています。「スナッグゴルフの大会」や「ちとせ・まち魅力検定」はその一つです。

この活動が、まちづくりにどのような成果があるかなどを判断しているのが「市民協働推進会議」の委員の皆さんです。今年の3月まで、千歳高校で学校長を務めていた釣さん。

千歳のまちづくりに貢献しようとする4月から会議の委員になりました。「道内の多くの高校で勤務しましたが、千歳高校には、2回勤務しました。特別な縁を感じた千歳に、昨年、住む

ことを決意しました。自分が住む千歳のために何かできないかと考えていたとき、委員の募集を知りすぐに応募しました」ときっかけを話します。

自ら行動することが大切だと考える釣さん。以前、勤務していた浦河では、廃止寸前の映画館「大黒座」を守る活動など、たくさんの方の地域活動に自ら参加してきました。

「行動するには、勇気が必要ですが、そこに、人とのつながりが生まれます。委員になりたいと思ったのも、新しい人とのつながりから生まれる、自分では思いつかないような考え方を知ることができると思ったからです。行動することは、私のエネルギーの源になっています」と釣さんは話します。

「委員として、市民活動団体の活動

成果などを判断する立場にいますが、まちでどのような活動が行われているのか、新たな発見ばかりです。委員の活動は、千歳のまちをより深く知ることができ、本当に勉強になります」と今の心境を語ります。

「住みよいまちにした」と思っている、まちのためにどう行動して良いかわからない人が多いのではないのでしょうか。それは、私も同じです。でも、千歳にかかわる一人ひとりが、勇気を持って行動すれば、みんなが住みよいまちになると思えます。委員になるという行動が、千歳のまちづくりに貢献できる第一歩だと信じて、これからも千歳のために行動し続けます」と釣さんはエネルギーギッシュに語ってくれました。

人 の い る 風 景

SCENERY OF PEOPLE

釣



HARUHIKO
TSURI

晴彦

さん